

第37回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和2年3月2日（月） 15：00～16：30

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、常田座長代理、永原委員、竝木委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

松尾局長、行松審議官、星野参事官、吉田参事官、中里参事官、鈴木参事官

(3) 関係省庁等

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

宇宙科学研究所

國中理事

藤本副所長

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査の取組状況について

JAXAから資料1を用いて説明があった

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等 ●：事務局・文部科学省・JAXAからの回答）

○MMXについて、フロントローディングがどのような効果をもたらしたか、示されるべき。

●今後取りまとめていきたい。

○サンプルリターンが惑星探査の重要な柱になってきている。はやぶさ2の採取サンプルのキュレーションに関する体制の充実はなされるのか。

●職員の増強、クロスアポイントメントを利用した体制強化等により、まずは初期分析をしっかりと行いつつ、その先の長期的な体制も検討したい。

○初期分析チームからも、カタログ化のみでなく先進的な研究成果が出てくるような取組を期待する。

○外国人研究者の巻き込みや、オールジャパンの体制等、広い視野に立った体制を検討する必要がある。

○早急に成果を出すというのが何より重要。ある程度、拠点化されたところでそこが得意とする分析・研究を集中して行うことも検討されるべき。

○実際の解析を担う大学の体制は脆弱。はやぶさ2のみならずMMXのサンプルリターンも見据えつつ、サンプル解析についても、JAXA側の体制や装置の充実などミッションの一環と捉えた対応は必須であり、研究者それぞれの科研費に任せるようでは不十分。

○サンプルリターンを柱に据えていくのであれば、ポストMMXとしてCAESARもいい構想であったので、改めて検討してみてもどうか。

●CAESARも含め、今後のサンプルリターン計画に向けた基本的考え方について検討を進めているところ。

(2) 宇宙基本計画の改訂に向けて
事務局から資料2を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。
(○：意見等)

○科学が結果としてプレゼンスの向上に貢献するのは理解するが、「プレゼンスを向上するために科学をやる」というニュアンスにならないように配慮してほしい。

○「宇宙科学・探査による新たな知の創造」に関する活動は、イプシロンロケットの取扱いや国民の理解増進等、他の視点と入り混じるものである点、留意が必要。

○有人宇宙活動、無人宇宙活動含め、活動領域の拡大という視点での宇宙活動について、記載ぶりを検討してほしい。

○天文学が国際的にみても大規模になりつつあり、また、コンステレーションの台頭により地上からの天文学に難しさも出てきている中、天文学についても適切な記載を検討してほしい。

以 上